

経営比較分析表（令和4年度決算）

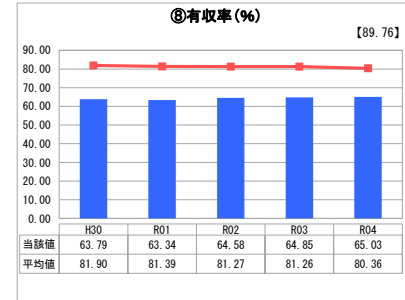
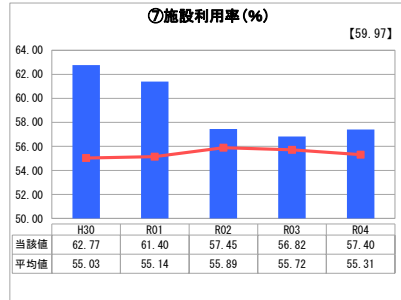
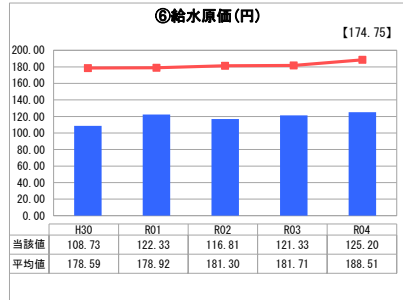
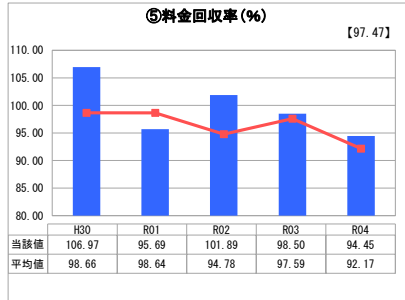
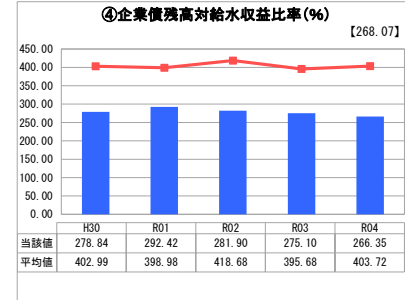
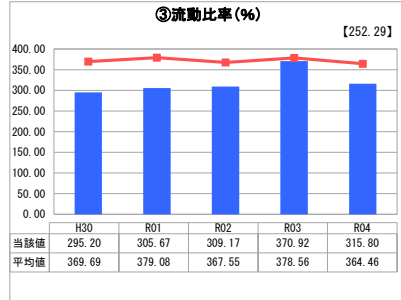
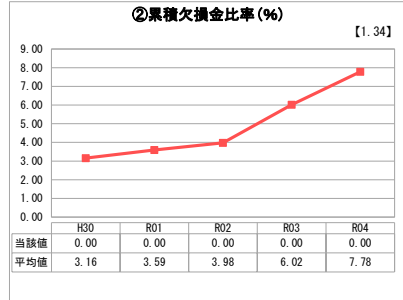
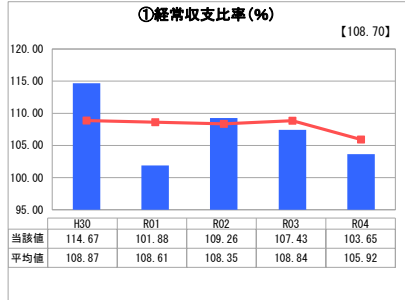
静岡県 伊豆市

| 業務名 | 業種名 | 事業名 | 類似団体区分 | 管理者の情報 |
|-----------|-------------|--------|-------------------------------|--------|
| 法適用 | 水道事業 | 末端給水事業 | A6 | 非設置 |
| 資金不足比率(%) | 自己資本構成比率(%) | 普及率(%) | 1か月20m ³ 当たり家賃料(円) | |
| - | 75.37 | 89.48 | 2,595 | |

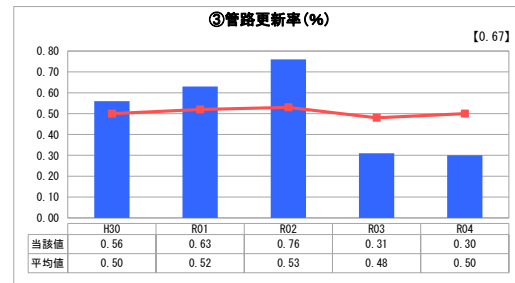
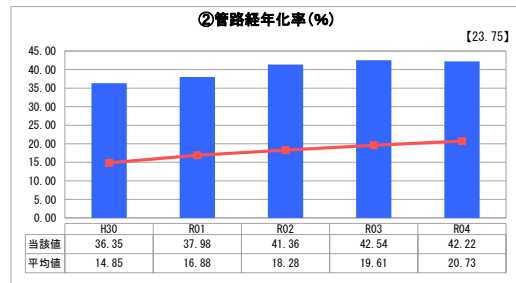
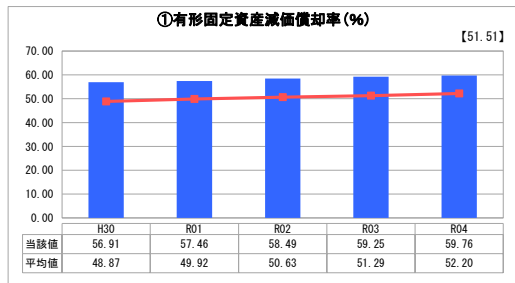
| 人口(人) | 面積(km ²) | 人口密度(人/km ²) |
|-----------|--------------------------|----------------------------|
| 28,872 | 363.97 | 79.33 |
| 現在給水人口(人) | 給水区域面積(km ²) | 給水人口密度(人/km ²) |
| 25,590 | 87.64 | 291.99 |

| グラフ凡例 |
|----------------|
| ■ 当該団体値(当該値) |
| — 類似団体平均値(平均値) |
| 【】 令和4年度全国平均 |

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

人口減少及び新型コロナウイルス感染症による影響により給水収益が減少し続けていたが、令和4年度では給水収益が微増となった。また、施設の老朽化による修繕費用や動力費が増え続けている。

① 経常収支比率は黒字を示す100%を上回るものの類似団体との比較では下回っている。年々右肩下がりとなり、料金回収率が100%を下回っている。これは、経常費用（動力費等）の増加が主な要因となる。

② 将来を見据えた計画整理中により起債借入額を抑制している。そのため、必要な更新の先送りにより企業債残高が少額となりつつある。

③ 給水原価は、年々右肩上がりであるが、類似団体と比較すると安価である。しかしながら、料金回収率は100%を下回っているため、料金改定を視野に含める必要がある。

④ 人口減少及び新型コロナウイルス感染症の影響に伴う使用水量の減少により、施設利用率は右肩下がりではあるが、令和4年度は観光人口の増などにより若干上昇した。山間部を通る管路等、場所の特定に至らない漏水が依然として多数あること、計器類も老朽化しており正確な水量を量ることが難しく、有収率の低迷の原因。管路だけではなく施設や機械設備類の更新も重点的に進めなければならぬが早急な改善は難しい。それでも管路更新と地道な漏水調査等での有収率は僅かながら回復した。

2. 老朽化の状況について

① 施設や管路更新工事を望ましいペースで行うことができず、減価償却率は年々上がり続けている。

② 更新工事自体が進まないことと合わせて、布設工事の際に撤去した旧管が固定資産台帳に登録しているものとの一致しない不明管の場合も多く、更新工事に対応した除却が進まないことも経年化率を上げる大きな要因である。固定資産台帳を見直し、現状に沿うよう資産を整理していくことが必要。令和3年度から管路台帳の補正業務を委託し改善を目指している。

③ 管路更新は類似団体平均より、ここ数年低迷している。計画見直しにより優先順位を明確にし、投資していかなければならない。

全体総括

人口減少による給水収益の減少と施設の老朽化に対応するために、少しでも費用を軽減することが水道事業の運営において重要である。将来的には料金値上げも避けられないため、作成中である水道ビジョンにおいて、ダウンサイジングや施設の統廃合をしっかりと検討し、経営戦略との整合を図り、計画的な安定経営を目指す。